

みほん切手

田畑 裕司

みほん切手は、大きく分けて(1)すみ点、(2)「みほん」字入りおよび(3)「見本」字入りの3種類に分類されます。さらに、広義には贈呈帖に貼られて消印された切手も含まれます。今回は、それぞれの代表例を紹介します。

みほん切手が発行された目的としては、(1)発行周知用(諸官庁用、各郵便局用、報道資料用、学校教材用)、(2)郵便局等における真偽の照鑑用、(3)収集家への頒布用および(4)諸外国の関係者等への贈呈用として作成されました。

【「すみ点」切手を貼付した布告】

旧小判切手の最初に発行(明治9年5月17日発行)された5厘、1銭黒および2銭オリーブの太政官(大臣)布告です。切手の印面に墨で点を入れていることから、「すみ点」と呼ばれます。月日が、印刷でなく手押しのため、発行日がギリギリまで決まらなかったのでしょう。

太政官布告は、明治6年4月1日発行の和紙桜切手4銭から明治12年6月30日発行の旧小判切手3銭と50銭まで見られます。太政官布告は、諸官庁と府県庁に送られたものですが、例会では布告が官庁で綴られた状態のものを御覧いただきます。

【「見本」字入りの官報附録】

新小判切手の25銭と1円の官報附録(明治21年3月28日)です。官報附録は、大判なので、切断されたものが多く、このように完全な状態のものは珍しいと言えます。

漢字で「見本」字入りのものは、菊切手、田沢切手、震災切手と種類が少ないのですが、本例以外に官報附録があるもの(新小判3銭、明治銀婚2種、日清4種)は、すべて「見本」です。

【「みほん」字入りの学校教材と全日本切手展目録】

「みほん」字入りは、字体のバラエティもよく見られます。特筆されるのが、図版の切手趣味週間「源氏」(昭和34年5月20日発行)で、第9回全日本切手展目録に無目打、厚紙、のりなしのものが貼付(7,000枚作製)されました。学校教材用と比べると、字体も小さいことが分かります。

【贈呈消し】

明治24年(1891)にオーストリーで開催された第4回万国郵便大会議の贈呈帳です。竜500文から新小判1円までの45種類が貼付され、当時の現行切手には「武蔵・東京 24. 3. 31イ便」の丸一型日付印が、その以前の切手には「東京ボタ印」が押されていた。封皮は、袋の中に入れて 있었습니다。100部調製の稀品で、「日専」では完本900万円の評価です。

第七拾壹號

郵便切手半錢ヲ五厘ト改メ壹錢貳錢共左ノ見本ノ通改正候條此旨
布告候事

但當分從前ノ切手取交相用不苦事

明治九年 五月十七日

太政大臣三條實美



「すみ点」切手を貼付した布告

官報第千四百四拾六號附録

明治二十一年四月二十八日

○ 告 示

逓信省告示第八十號

本年三月省令第一號ヲ以テ發行ノ郵便切手貳拾五錢壹圓ノ二種見本左ノ通

明治二十一年四月二十八日

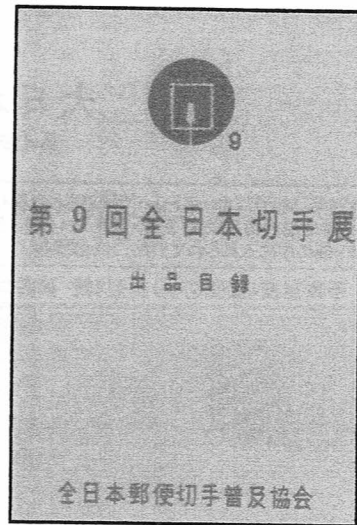


逓信大臣子爵榎本武揚

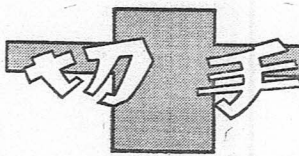
第百四十六號附録

明治二十一年四月二十八日

「見本」字入りの官報附録



全日本切手展目録に貼付されたもの




全日本郵便切手普及協会

324 号

1959年5月3日 外

教材第17号

切手趣味週間にちなむ特殊切手



郵政省の代行機関として、昨年12月19日設立された全日本郵便切手普及協会の主催で、5月20日から5月26日まで切手趣味週間が催されます。

週間の行事のひとつとして、東京日本橋の三越において、5月19日から5月24日まで第9回全日本切手展が開かれますが、全国各地でも切手展その他いろいろな行事が計画されています。

郵政省では、この週間にちなんで、5月20日から細田栄之作版画「浮世源氏八景」の中の「まぼろし落籠」を図案に用いた特殊切手を発行します。

細田栄之（ほそだえいし）は、江戸時代の浮世絵画家で、宝暦6年（1756）に生れ、姓は藤原、氏は細田、名は時富、俗称弥三郎、後に久左衛門と改めました。

10代将軍家治の御用絵師になりましたが、奉職3年で職をやめ浮世絵に専念しました。「栄之」の号は、将軍から命ぜられたものですが、一生これを用いました。また、美人画を鳥居清長や文政齋に学びましたので、両方の頭文字をとって、「鳥文斎」とも号しました。栄之の画風は気品高く、美人画の背景に黄色を用いて明るい感じをあらわしたのは特色といわれます。文政12年（1829）74才で亡くなりました。

版画の左上部には、すだれと落籠が描いてありますが、切手画面構成上からとりに除いたものです。

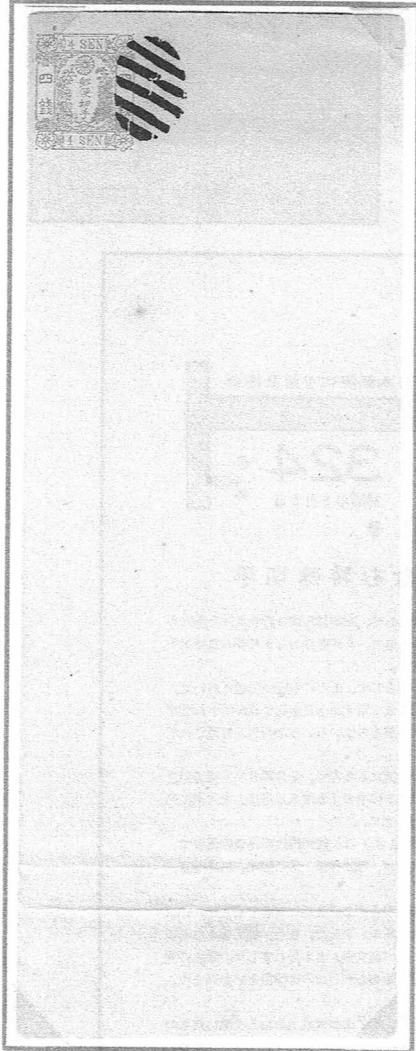
発行日	昭和34年5月20日	用紙	白紙、無透
種類	10円切手	版式	グラビア
意匠	細田栄之作版画「浮世源氏八景」の中の「まぼろし落籠」	印刷寸法	縦48ミリ、横33ミリ
刷色	赤、にぶ黄、青および黒の4度刷	シート構成	縦2枚、横5枚の10刷
		図案構成者	長谷部日出男
		発行枚数	15,000,000枚

学校教材用 切手趣味週間「源氏」

大日本帝國郵便切手 第4回万国郵便大会議贈呈帳

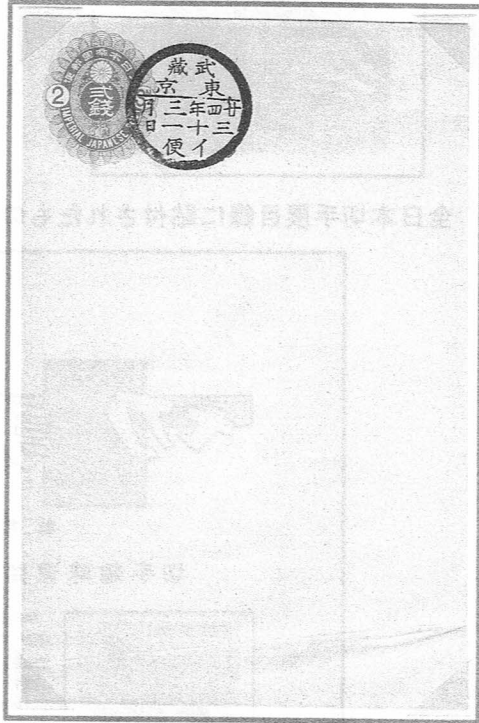
明治24年(1891)にオーストリーで開催された第4回万国郵便大会議の贈呈帳。竜500文から新小判1円までの45種類が貼付され、当時の現行切手には「武蔵・東京 24.3.31イ便」の丸一型日付印が、その以前の切手には「東京ボタ印」が押されていた。封皮は、袋の中に入れてられていた。100部調製。

手彫封皮(郵便切手)長型4銭 仮名口



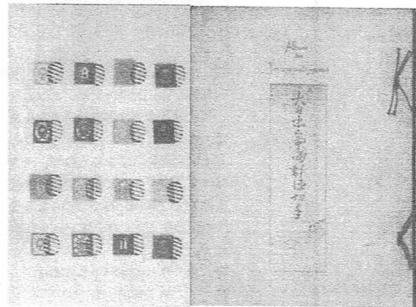
東京大型ボタ

小判封皮(大型)角型2銭



武蔵・東京 明治24年3月31日イ便

(参考) 表紙と切手を貼付した頁



贈呈消し